



## ■主な内容

- ・第70回海外交流の会講演会・見学会に参加して『近代建築「旧国立公衆衛生院」から「ゆかしの杜」へ』
- ・参加者より寄稿  
継承への思い入れー「旧国立公衆衛生院からの大改修」講演会に参加して
- ・台湾女性建築家学会
- ・復興から8年目ということ
- ・法末復興祈念'19はつがま茶会に参加して



14年目の法末。  
賽ノ神の前に  
(写真：松川淳子)

第70回海外交流の会講演会・見学会に参加して『近代建築「旧国立公衆衛生院」から「ゆかしの杜」へ』 渡邊 喜代美  
70th Intercultural Lecture: Large-scale Improvements to the Institute of Public Health Building and the Conversion of Modern Architecture WATANABE Kiyomi



講演会講師：藤井 恵介氏

### 街に生きたい

「近代建築の長寿命化と用途変更」というお題に、久々楽しい時間をいただいた。建築の時間・空間の醸成は、基本はその地にあることだ。建物を移築保存し展示する「江戸東京たても園」「博物館明治村」などを訪ねた折に、整った環境で単体展示される遺構の静けささみしさはなんなのか。とはいっても、残った記憶は大事な遺産である。解体されたら身もふたもない。例えば、同潤会大塚女子アパートメントハウス。解体職人たちが、打ち込み精度や工法の工夫に感動し、本当に壊していいものかと思ったという遺構



見学会案内：  
川上 悠介学芸員

だった。利活用されていたら街の情景も異なっていたに違いない。同潤会唯一の都所有であった故に行政判断を今更ながら無念に思いつつ、今回は、久しぶりに出会った気持ちいい保存利活用である。近年は、保存への機運が高まっているという認識を藤井先生が示したことは心強い。

### 市民による利活用を旨とした再生

この保存利活用が、コンバージョンの世界に一石を投じているテーマは「文化財区指定しない」「建築基準法に準拠する」という選択をしたこと。それによって、多様な用途を構成する選択をした。市民の誰もが出入りできるしつらえは港区立郷土歴史館等複合施設（港区立郷土歴史館、在宅緩和ケア支援センター、子育て関連施設、区民協働スペース、防災関連施設など）ーゆかしの杜ーとなって子供の声や老若男女入り混じった活躍が楽しい一方、思い切った選択もした。「講堂」を現行法に準拠させる

## 第27回 UIFA JAPON 総会・記念講演会のご案内

### 27th UIFA Japon General Meeting and Commemorative Lecture

日時：2019年6月15日（土）13：20～総会、15：00～16：45 講演会

場所：公益社団法人愛知建築士会 会議室（名古屋商工会議所ビル9階）

講師：名古屋大学減災連携研究センター長 福和 伸夫教授



福和 伸夫氏

1981年名古屋大学大学院修了後、清水建設(株)入社、1991年名古屋大学工学部助教授、1997年先端技術共同研究センター教授、2001年名古屋大学工学部助教授、01年環境学研究科教授を経て、2012年より現職。建築耐震工学、地震工学、地域防災などの教育・研究に従事。減災連携研究センターの設立、減災館の建設、振動実験教材・ぶるるの開発、防災人材の育成、各地での防災啓発活動などを通して、災害被害を軽減する国民運動に注力。

と、都の安全条例の縛りはきつい。ここは無理せず、最終的には今後にゆだね、改造することなく、今のところは、展示物という扱いとしよう、という決定をした。凄いですね！いいですね。こうした柔軟な判断は、市民に役立つ遺構として活かす！という立ち位置が明確だったからであろうと思う。講師と学芸員のお話からは息の合ったチームワークがうかがえる。最終の結論は誰が出す？という質問に“ごく自然に合意形成にたどり着き実現した”という感じだったようだ。この柔軟さ、相互理解の深さがよい結果を生んだと推測する。市民が使う！位置づけが生んだ知力だろう。保存の共同作業（藤井ペーパー）には+地域人の力・保存された建築を使いこなす力・人間力、運営力。などか。いい運営こそ金である。

### 課題もあった議論してみよう

内田祥三設計は隣接する東京大学医科学研究所内にもある。本来地続きで、垣根のない一体的な園庭の管理が今もあれば、地域にとってはのびのびした場になったであろうと、エリア分けされた鉄柵を残念に思う。あるいは、“新設した斜路の不透明な柵はいかなるものか”との設問にも同感もしたが、また一方では“サブエントランスと同レベルの今様のテイストのペDESTリアンウェイを古色蒼然とした内田ゴシックに纏わせ、一見とってつけた様にも思えたが、生き生きとした景観の様にも思えた”という見方もある。こうした完成後の観察はもし、見直しのチャンスがあれば、その折の課題に取り上げててもよいだろう。あるとき北欧で出会った話であるが、意見があれば吟味し、完成直後でも手直しをするそうだ。この柔軟さ、Hygge（ヒュッゲ）さ加減がこの現場には期待できそうな気がした。

レベル差のある敷地に建つ旧公衆衛生院は、サブとメインのエントランスを光のペDESTリアンウェイでつないでいる。夜景が印象的だった

(写真：井出幸子)



旧公衆衛生院の品格を最も留める1階吹き抜けのあるエントランスホールと階段。吹抜けは現行法に合わせたガラスの手すりが巡っている。区民によるミニコンサートが開かれていた

(写真：井出幸子)



### 参加者より寄稿

#### 継承への思い入れ—「旧国立公衆衛生院からの大改修」講演会に参加して Contributions from Other Participants

上田 浩二  
UEDA Kouji

2019年3月2日（土）白金にある「港区郷土歴史館 ゆかしの杜」にて、東京大学名誉教授である藤井恵介先生の講演会が開催されました。仕事も休みになり、建築史に興味があって、参加しました。藤井先生は、東京芸術大学客員教授、建築史学会会長、文化庁文化審議会委員等も歴任されていて、学生時代、建築史をかじっていた私としては、すごい先生なのだと感じました。

講演を聞いて、ここに至るまでの大変な努力と労力は、各担当者のこの建物に対する「深い継承への思い入れ」無くしては、成し得なかったものだと感じました。例えば、内壁の改修部分と既存保存部分の仕上げの区

別、杢刷り石の痕跡残し削り等の表現方法が「愛」だなと感じました。もう1つ忘れてはならないのは、施工者からの提案により、撤去予定材料が建具、家具・什器に利活用されたことでしょうか。現場業者らの「愛」をも包み込んで実現されたようです。

建物の外観は、ほぼ既存の様相を残しつつ、内部は、使用する建物として、現況に合う基準に従って改装されています。講義の後、館内を案内していただいた。郷土歴史館として、とても楽しい興味深い施設に变身したと思いました。今回参加できなかった方も、是非、1度は見に来られてはいかがでしょうか？

## 台湾女性建築家学会

## Women in Architecture Taiwan: 2019 International Women's March

伊藤 京子

ITO Kyoko

国際女性デーにちなんで台北市で開催された台湾女性建築家学会（以下 WAT）「建築における女性たち」に関する集いに参加して来ました。WAT は昨年 5 月 5 日に設立総会したばかりで、まだ一年たっていない若い団体でした。エンジニア・環境・教育者等様々な建築士が集まり、名誉会員 5 名、正会員 63 名、学生 7 名、賛助会員 2 名計 77 名の社団法人です。

一日目は午前中の合同打合せ会があり最初に WAT から UIFA JAPON へ出席要請をしたのは自分たちのこれからの活動の在り方等を検討するうえで UIFA JAPON がどのような団体であるか（会員は女性だけか、反対はなかったか、建築士だけか、入会要件は、どのような活動をしているか等）知りたかったからですと説明されました。森田会長から UIFA JAPON について説明がされ、WAT からは希望すれば国際会議開催時には台湾からも参加できるかまた発表が出来るか、また、台湾で開催することもできるか等の質問がありました。3 月末に IAWA に出席される松川さんが海外女性建築家のことに造詣が深いことを紹介。お互いこれから交流を深めましょうと話がはずみました。

その後台湾の女性建築家の現状を聞きました。大統領が女性で現在男女平等の意識が高いように見えるが公務員の幹部は増えず、リーダーの割合が少ない。昇進しない理由はクレームに弱いというイメージがあり、また女性も多忙は嫌、地域移動は嫌との意識がある。建築の学生は 2004 年から男女比は 1 : 1 であるが女性の教員は三分の 1 であり重要ポストは男性が占めている。何故か女性が教授になったとしても男性の考えに変わるようです。女性建築士の意識が低い。優秀な人は一杯いるのです。他から来て気付かされる。建築部門は公共建築に入っているが建築士は文化部に移転すべきでは等々。

午後からは花園ホール？に会場を移しセッション 1 が始まりました。森田会長が UIFA JAPON の 25 年間の歩みを紹介。続いて Chair of Boards of WAT の許麗玉さんが台湾の女性建築家 5 人の先駆者を紹介、そして吉野さんが UIFA JAPON の活動を紹介。最後のスピーカーは

Managing Supervisor of WAT の戴嘉恵さんが公共建築に携わる台湾の女性建築家について紹介され Redefining Success Small is the New Big の言葉で締めくくられました。

休憩をはさんで私達 3 人と WAT の 3 人の座談会があり、その中で日大と早稲田を卒業された 70 歳の郭中端さん（東京建築士会から受賞したことがある）の、建築士ではなく建築家であること、資格はいりません、情熱さえあれば性別・資格を気にせず志を持って下さい、と若い人達に呼びかけられたことが印象に残っています。

二日目は会員の交流会が開催されました。参加者は全員ピンクゴールド色のプレスレットをして。プレスレットは Her-story Her-voice Her-persistence と刻印されています。戴さんが WAT を立ち上げた当時アメリカで買ったポストカードに心境にぴったりの言葉が載っていたそうです。それ以降この言葉が WAT のスローガン？になっているそうです。交流会にも参加していた若い会員の一人がステンレスのバーに 1 文字ずつ刻印して仕上げられたそうです。とても充実した 2 日間でした。



左：交流会参加の WAT 会員（写真 WAT 提供）

右上：プレスレットをして（写真 WAT 提供）

右下：プレスレット（写真：伊藤京子）

UIFA JAPON 事務局

〒102-0083

東京都千代田区麹町 2-5-4

第2 押田ビル (株)生活構造研究所内

Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866

E-mail: uifa@liql.co.jp

URL: http://uifa-japon.com

発行 2019年4月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON

c/o LABORATORY FOR INNOVATORS  
OF QUANTITY OF LIFE  
DAINI-OSHIDA BLDG.  
2-5-4, KOUJIMACHI, CHIYODA-KU  
TOKYO, JAPAN 〒102-0083

PHONE :+81-3-5275-7861

FAX :+81-3-5275-7866

URL :http://uifa-japon.com

## 被災地通信 (22)

復興から8年目ということ  
8 Years After the Earthquake岩井 紘子  
IWAI Hiroko

私達 UIFA JAPON は新潟県中越地震での小国町法末支援をキッカケとし、東日本大震災での福島県郡山市、新地町、岩手県岩泉町、熊本県益城郡御船町等、約15年にも及ぶ「どこでもカフェ」と題し、お抹茶仕立てのカフェを通して建築相談的傾聴ボランティアを行って来た。つい先の3月11日、大概のマスコミ媒体で東日本大震災から8年目の様を多面的に報道され、被災地現状の厳しさを知って頂けたと思う。首相日録によると10日は武道館での松任谷由実コンサート鑑賞のみ。あの巨大地震と津波、原発事故による犠牲者は行方不明者、関連死を含め全国で計22,131人にのぼる。多くの犠牲者を出した岩手、宮城、福島3県沿岸部。その被災者の30%強が震災前の暮らし全般が、より厳しくなると云われている。風評対策や住宅再建等の生活支援とか防潮堤・高台移転等の公共事業、また道路・鉄道、教育・医療・福祉等の復興対策などは大筋3~4割の評価という。いずれ自力で歩み続けなければならぬ。まだまだ震災復興途上である8年という歳月は、グループ化補助金、二重ローン支援、仮設店舗貸出等様々な物資、財政両面からの支援も、支援金返済開始や、2020年度行政への復興交付金打切り等、今後かなり厳しい現実が待ち受けている。本当は国家的災害なのだ。

12日以降のマスコミ対応や、国家元首の言動から見ても、喉元過ぎれば対応を、如実に感じた8年目の3・11東日本大震災メモリアルの日でした。



震災遺構として一般公開されている仙台市立荒浜小学校の1階部分 (写真: 岩井紘子)

法末復興祈念'19はつがま茶会に参加して 北本 美江子  
New Year 2019 Tea Ceremony in Hosse, Niigata KITAMOTO Mieko

1月13~14日に小千谷経由で久しぶりの法末に行きました。今年は雪が少なめで、道路はアスファルトが露出、雪の壁は1mに満たないのはやはり暖冬なのかと思わされます。新潟から参加された方に伺うと、新潟でも積雪なしとのことでした。とはいえ新幹線でトンネルを抜けて以後、目にできる白い雪景色は心を落ち着かせてくれます。稲藁を積み上げて正月飾りを一緒に燃やす、賽ノ神の赤い炎と白い雪の対照も懐かしいものでした。

2004年の中越地震から14年余、何回目の参加になったか、今回も私は相変わらず会場設営とお茶の陰立てや水屋の手伝いしかできませんが、お茶を楽しんで下さる地元の方々にUIFA JAPONはお馴染みになっていて、長いお付き合いの大切さを改めて感じます。およそ50戸100人だった集落は高齢化で減少気味ですが、新しく引っ越してくる人もいようで、UIFA JAPONのメンバーも参加する「まちづくり会社(株)法末天神囃子」の活動が一翼を担っているに違いありません。賽ノ神に点火をしたのは猪年の年女、年男で、この日は小学生や若い人たちも集まって和やかに賑やかでした。



初釜を楽しめる法末の皆様 (写真: 阿部誠)

## ■役員会報告

## ■2019年第5回1月16日

昨年に続き宮崎玲子会員宅にて役員会を行う。熊本地震被災地「住まいづくり相談会」報告 第70回海外交流の会準備 パンフレット更新案検討 法末初釜開催報告 台湾女性建築家学会からの招待・参加報告

## ■2019年第6回3月1日

「UIFA JAPON 被災地支援住宅相談会」報告会 岩泉町「住まいづくり相談会」準備 国立女性教育会館へ出版物寄贈報告 第70回海外交流の会準備 来年度総会名古屋開催決定 総会準備 パンフレット更新案決定 NL111号発行

## ■編集後記

「ゆかしの杜」で嬉しかった事。初期の魅力的な鋼製積層書架が再利用され、講堂下が低天井の図書室となっていた(井出) / 価値ある歴史的建築物を、現代に活用する素晴らしい! 折しも、ノートルダム寺院の消失に、心痛める(牛山) / 母の骨折騒ぎの春でした。もう新緑ですね(薄井) / 新潟高田公園の満開直前の桜と背景の雪山の景を楽しんできました(宮本) / 人の繋がりは面白い! 旧国立公衆衛生院初代院長が知人の林康義氏の祖父林春雄氏ということは富田玲子氏の義祖父ということが「子どものための建築と空間展」同行後の居酒屋での雑談!! その「展」でも人の繋がりがわーと! あったということ(渡邊) / 今住んでいる建物も築85年。不便なところもありますが、傷をつけず、使いやすく...と考えるのは楽しいです(飯田)